

令和7年度（2025年度）
函館市西部地区再整備事業
町会活性化プロジェクト

実施報告書

令和8年（2026年）3月

函館市
都市建設部まちづくり景観課
市民部市民・男女共同参画課

目次

- 1 町会活性化プロジェクトとは P 1
- 2 モデル町会のこれまでの取組 P 3
- 3 令和7年度（2025年度）の取組 P 6
- 4 まとめ P 9

1 町会活性化プロジェクトとは

函館山麓の西部地区は、異国情緒漂う歴史的な町並みや美しい景観などの魅力的な環境に、ここで生活する方々の日常の暮らしが相まって、市民のみならず多くの観光客が訪れる地区となっているが、近年、人口減少や高齢化等によりまちの活力は低下し、空家・空地が増加するなど、地区の魅力を失いかねない状況にある。

そのため、これらの課題解決に取り組みながら、将来にわたって持続可能な西部地区ならではの暮らしと風景を構築し、市内外の多様な方々の移住などにより定住人口の回復と交流人口の底上げを目的とする西部地区再整備事業を実施するため、本事業の基本的な考え方や方向性を定めた「函館市西部地区再整備事業基本方針」（以下「基本方針」という。）を令和元年（2019年）7月に策定した。

基本方針では、将来像として「西部地区ならではの『まちぐらし』の実現」を掲げており、その実現に向けて以下の3つの重点プロジェクトを推進することとしている。

- ・ 共創のまちぐらし推進プロジェクト
- ・ 既存ストック活性化プロジェクト
- ・ 町会活性化プロジェクト

「町会活性化プロジェクト」では、人口減少や少子高齢化、町会加入率の低下により、町会の資金力や活動量が減少し、その存続にも大きな影響を与えていることから、モデル町会を選定し、市職員や学生などの新たな人材が町会に深く関わり、町会と協働しながら状況を分析し、具体的な方策を検討することで、町会の活性化を図る取組を進めていくこととしている。

○ 将来像

西部地区ならではの『まちぐらし』の実現

地区の歴史と文化を受け継ぎ、
自分の日常をまちで活かしながら
人とのつながりを育み、新しい暮らしを紡ぐ

「西部地区ならではのまちぐらしの姿」

- ・ まちそのものを家として暮らす
- ・ 自分たちの暮らしを自分たちで創る
- ・ 人のつながりの中で暮らす
- ・ ここにあった新しい暮らしを楽しむ

○ 重点プロジェクト

共創のまちぐらし推進プロジェクト

● 目的

市民等と行政が連携して、共創による取組の検討・実施・検証を行う仕組みを構築する。

● 事業内容

- まちぐらし事業の検討・実施・検証
- まちを学ぶ場の提供

ソフト事業
(官民連携促進)

既存ストック活性化プロジェクト

● 目的

空家・空地等の既存ストックの活用策を検討・実施し、良好な宅地の供給や生活利便施設の導入などを進める。

● 事業内容

- 不動産データベースの構築
- 民有の低未利用不動産等の流動化促進
- 公有の低未利用不動産等の利活用

ハード事業
(街区整備・建物改修)

町会活性化プロジェクト

● 目的

市職員や学生等の新たな人材が町会に深く関わり、状況分析と方策の検討を町会と協働で行いながら、町会の活性化につなげる取組を進める。

● 事業内容

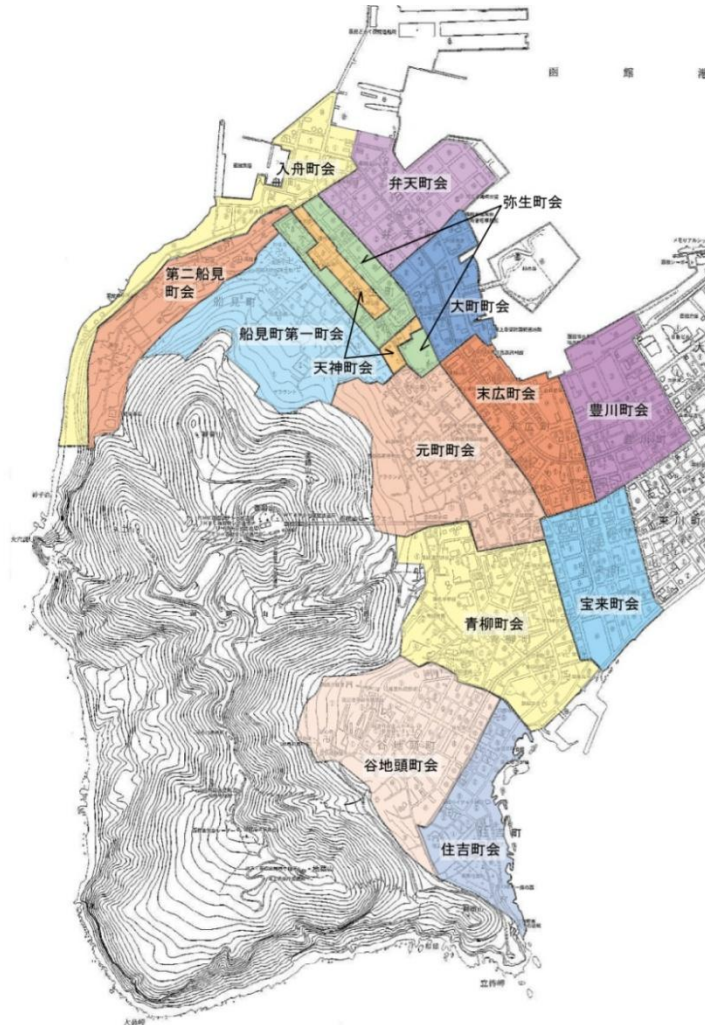
- 新たな人材との協働による町会活性化の推進

ソフト事業
(町会活性化)

ソフト・ハード両面からの取り組み

なお、本プロジェクトの対象町会は、基本方針の対象地区にある14町会とする。

対象町会：入舟町会、船見町第一町会、第二船見町会、弥生町会、
天神町会、弁天町会、大町町会、末広町会、元町町会、
青柳町会、谷地頭町会、住吉町会、宝来町会、豊川町会
合計 14町会



令和6年度（2024年度）に実施した、西部地区再整備事業の中間検証において、モデル町会によっては、課題の分析や必要な方策の検討を明確に実施できなかった場合があったほか、モデル町会の選定期間終了後に取組の継続が困難となった場合があったことから、今後においては、モデル町会の特性に応じて進め方を工夫するとともに、防犯・防災対策など、町会の基本となる活動を中心に、モデル町会の選定期間終了後においても新たな人材や団体等との協働のもと、町会が自律的かつ継続的に活動できるよう取り組むこととした。

また、モデル町会以外の町会に対しても、引き続き、取組を共有するとともに、必要に応じて、町会同士の連携のほか、地域内外の団体・企業等による協力や連携を促すなど、西部地区全体の町会活性化を目指すこととした。

2 モデル町会のこれまでの取組

元町町会

- 期 間：令和元年度（2019年度）
- 課 題：役員および町会活動参加者が減少・高齢化しているため、将来の担い手育成のため町会活動に若い世代の参加を促すこと
- 実施内容：親子向け行事「もちづくり・豆まき大会」の開催
- 実施結果：予想を上回る参加があり、かつ、参加者の満足度も高かった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の継続には至らなかった。



弁天町会

- 期 間：令和2年度（2020年度）～令和4年度（2022年度）
- 課 題：担い手不足による若い世代向けの町会活動が実施できないため、若い世代が参加しやすい環境・仕組みをつくること
- 実施内容：子ども向け行事「しゅくだいくらぶ（勉強会）」および「スマイルくらぶ（遊びの場）」の定期開催
- 実施結果：町会に関わる新たな人材として、函館「荘」プロジェクトと協働し、町会活動に若い世代が参加する機会を創出した。新型コロナウイルスの影響で一時休止したが、多くの参加があり満足度も高かったものの、運営メンバーの多忙により令和4年度で終了し、継続性の観点から課題があった。



弥生町会

期 間：令和4年度（2022年度）～令和5年度（2023年度）
課 題：役員の平均年齢が若く、活発に活動している一方、町会員の多様なニーズに応えるため活動が拡大していること

実 施 内 容：持続可能な町会活動に向けた運営方法の構築

実 施 結 果：納涼祭の運営方法見直しをテーマに、市職員が町会と協議し、地域の小学校等からの備品借用や道路占用による会場確保の仕組みを整理するとともに、共創サロンなどの場を通じた情報発信により他町会への共有に努めた。さらに、西高の教諭・生徒が地域住民の困り事を解決する仕組みを検討するため、茶話会に参加しヒアリングを行った。



青柳町会

期 間：令和4年度（2022年度）～令和5年度（2023年度）
課 題：役員の平均年齢が若く、役員の得意分野（イベント開催ノウハウ、デザイン等）を活かしながら、活発に活動している一方、仕事や子育ての都合で町会活動の担い手として参加できない役員が多いことに加え、町会館の解体を検討しているものの、必要な資金が不足していること

実 施 内 容：資金調達に向けたバザー（既存行事）の運営方法の見直し

実 施 結 果：市職員が役員会や町会行事に参加し、意見交換を通じて協議を行いながら、子どもが担い手として参加できる仕組みづくりのため、小学生がボランティアとして参加したほか、来場者増加のため他団体との連携を行うとともに、共創サロンなどの場を通じて情報発信し、他町会への共有に努めた。



谷地頭町会

期 間：令和6年度（2024年度）

課 題：役員の高齢化が進み、大半の役員が複数の役職を兼務するなど、
役員の手不足が生じていること

実 施 内 容：防災訓練の見直し、デジタル化の推進

実 施 結 果：出前講座や防災訓練等を通じ、谷地頭地域の災害リスクや避難
行動への理解が深まり、町民の防災意識向上につながった。ま
た、訓練実施に向けた手続等を整理し、継続的な取組の基盤を
整備したほか、TOPPAN(株)協力のもと「災害VR」体験会を
開催し防災啓発を行った。さらに、デジタル化促進講座を通じ
て、LINEを活用した情報共有により、町会役員間の連絡の効
率化が図られた。



TOPPAN コンテンツ体験会

防災と健康のデジタルコンテンツを
体験してみましょう！



地震・津波・風水害。
自然災害を体験するVR「災害体験VR」
防災意識向上を、リアルな体感経験で。



「はこだて健幸アプリ～Hakobit
～」は、どなたでも利用できる
健康系アプリ。歩いて・記録し
て・参加して、いろいろな特典を
ゲット

3 令和7年度（2025年度）の取組

令和6年度から引き続き谷地頭町会をモデル町会として選定し、自律的かつ継続的に活動できるよう、具体的な取組を実施することとした。

1 特性

- ① 人口：1,199人 世帯数：708世帯（R7.4月末現在）
- ② 広報：町会だよりを原則毎月発行し戸別配布。ホームページあり
※回覧版なし
- ③ SNS：なし（事業開始時点）
※令和6年5月、フェイスブック（きらく荘学生管理）のアカウントを削除
※令和7年度の取組において、町会公式Instagramアカウントを開設
- ④ 行事：七夕祭り、夏祭り、文化祭など1年を通して適宜イベントを開催
- ⑤ 地域特性：
 - ・ 函館山の東麓に位置し、豊かな自然と歴史的建造物等を併せ持つ
 - ・ 津波災害警戒区域が広範囲にわたり、土砂災害警戒区域も一部存在
 - ・ 1953年に開業した歴史ある温泉施設「谷地頭温泉」が立地
 - ・ 市電終点の「谷地頭」電停があり、市内中心部からのアクセスが良い

2 課題／取組

役員の高齢化が進み、大半の役員が複数の役職を兼務するなど、役員の担い手不足が生じていることから、持続可能な町会運営を目的として、昨年度に引き続き「防災訓練の見直し」と「デジタル化の推進」の2つをテーマとして設定し、取り組むこととした。

3 取組内容

(1) 防災訓練の見直し（LINEを活用した防災訓練の実施）

今年度の防災訓練は、企画部地域デジタル課が取り組む「市公式LINEの防災分野への応用」を検証するための実証実験と共同実施とし、LINEを活用した「避難所デジタルチェックイン」と「避難所外避難者への物資支援」を追加し実施した。その結果、町会員がデジタルツールに触れる機会となり、日常的な活用に向けた意識啓発につながったほか、周知に当たりSNSを活用することにより、訓練に関する情報共有の迅速化が図られた。

避難者の受付では市公式LINEを活用したデジタル受付を実施し、多くの

参加者から利便性が高いとの評価を得た一方、アンケートでは「操作に戸惑った」「手伝ってもらわないと進めなかった」といった意見も複数確認されたことから、人的フォローを前提とした運用が必要であることが明らかとなった。

実際の避難時には、谷地頭町の住民だけでなく、青柳小学校が避難所になり得る住民の参加を促すことが効果的であると考えられる。そこで、事前に青柳小学校の児童に対してチラシを配布した結果、谷地頭町外からの参加を得ることができ、町会単独の活動を超えた訓練に発展した。これにより、当該町会のみでの取組にとどまらず、学校を核とした地域全体での防災意識の共有につながるとともに、町会の枠を超えた連携の可能性が高まった。



防災訓練の様子（令和7年9月28日開催）

谷地頭町会・函館市から避難訓練のお知らせ

谷地頭町民、 一斉避難せよ

避難訓練 **9.28** 日曜日 10:00～ 避難先 青柳小学校 (体育館)

参加者プレゼント
 キリン信州のおいしい水
 600ml ペットボトル
 (CGCグループ限定)
 提供：株式会社 道南ラルス

先着 96名 限定

今年度はココが違う！3つのミライ体験

受付のミライ	助け合いのミライ	避難生活のミライ
<p>避難者名簿に名前を書く時代はもう終わり。市公式LINEを活用して、たった数秒で入場できる避難所受付を体験できます。</p>	<p>自宅や車中に避難していても、市公式LINEで簡単報告。事情があって避難所に避難できない方を地域で助け合うしくみの体験ができます。</p>	<p>非常食って食べたことありますか？災害時に、命を守るために欠かせない、非常食の試食会も実施します。</p>

主催 谷地頭町会・函館市・株式会社Bot Express
 協力 株式会社プラスモバイル (auStyle 中道店・日吉店) 協賛 AEONイオン北海道株式会社 DCM 株式会社道南ラルス (50名限定)

問合せ先 函館市企画部地域デジタル課 TEL 0138-21-3627 (土日を除く8:45~17:30)

(2) デジタル化の推進（町会公式 Instagram の導入）

町会活動に関する情報の迅速な伝達および若い世代への周知強化を図るため、町会においてデジタルツールの活用について協議を行った。その結果、複数のSNSの特徴や運用負担等を踏まえ、視覚的に分かりやすく継続的な情報発信が可能であるInstagramを活用することとし、町会が主体となって谷地頭町会公式アカウントを開設するとともに、防災訓練等の町会

行事のほか、地域の日常の様子など、継続的な情報発信が行われた。これにより、従来の回覧板や掲示物を中心としていた情報発信手段に加え、写真等を用いた視覚的に分かりやすい形で、町会活動の周知が行われるようになった。

デジタルツールの運用状況として、投稿に対する閲覧や反応が継続的に見られており、町会の情報発信手段の一つとして浸透されている状況が確認された。



谷地頭町会公式 Instagram（一部引用）



(3) その他

北海道函館西高等学校の探究学習において、町会をテーマに取り組み生徒に対し、町会活動への理解や町会関係者との接点づくりに向けた支援を実施した。



函館西高等学校「総合的な探究の時間」授業風景

4 まとめ

谷地頭町会では、昨年度に引き続きモデル町会として取り組み、防災訓練の見直しおよびデジタル化の推進を段階的に実施した。これにより、昨年度の取組内容の具体化と運用面の充実が図られた。

また、取組を通じて、実情に応じた運用調整や近隣小学校等関係機関との連携手法など、実践的な知見が町会に蓄積され、継続的な取組が見込まれる状況となったことから、谷地頭町会におけるモデル町会の取組を終了する。

本取組を通じて、町会活動を単一の町会内にとどめず、他町会や学校等と具体的に関わりながら進めることで、町会の枠を超えた連携の可能性が高まったことを踏まえ、今後においては西部地区再整備事業基本方針における町会活性化プロジェクトの在り方を検討していく。